



国際ロータリー 第2570地区 新座ロータリークラブ会報 2018～2019年度

第1711号

NIIZA Rotary weekly

平成30年9月27日 発行

国際ロータリー会長 バリー・ラシン 『インスピレーションになろう』



第2570地区ガバナー 茂木 正 『思いを繋ぎ地域と国の発展に奉仕する』

会長方針 『ステイタスの向上とクラブ活動の活性化』

会長 松岡 昌宏 副会長 吉原 良一 幹事 鈴木 明子

第2071回例会 9月第3週 9月20日(木)

通常例会「米山月間」に因んで

萩原 勇米山記念奨学委員長・高橋遼太米山記念奨学副委員長

司 会 親睦活動委員 石原 勇介
点 鐘 会長 松岡 昌宏
ソング 「それでこそロータリー」

会長の時間 会長 松岡 昌宏



皆様こんにちは。大分秋らしい風が吹くようになってまいりました。毎回多数の例会参加ありがとうございます。

昨日は、親睦活動委員会主催のゴルフ同好会が東松山カントリークラブで開催されました。涼しくなり、楽しいひと時が過ごせました。ゴルフ程メンタル精神面が大きくスコアに影響を与えるスポーツはありません。かくいう私も、昨日はプレー中に、お客様からクレームの電話が入りゴルフに集中できない状況が続きました。私の本業は、家造り、街造りです。仕事イコール地域社会に貢献できるものと信じ、高品質、高品

位、顧客の満足度を第一に考え努力してきたつもりです。

なかなかお客様にこちらの誠意が伝わらないのですが、ロータリーの奉仕活動を通じて培ったサービス精神を忘れず、忍耐強く対応してゆきたいと感じさせて頂きました。

ロータリーソングの「奉仕の理想」「われらの生業」の歌詞を胸にロータリー活動に仕事に邁進してゆきたいと感じた一日でした。

さて、昨日は、第2回会長幹事会が開かれました。主な議題は、「マイロータリーの活用」でした。当クラブの利用率、登録率は12.3%です。地区の中でもかなり低いです。ウェブサイトをうまく利用することでロータリー活動をもっと盛んにできると思いますので、皆様もどんどん利用して頂きたいと存じます。

本日は「米山月間」に因んで、萩原委員長、高橋副委員長に卓話を頂戴します。宜しくお願い申し上げます



幹事報告 直前幹事 小泉 哲也



1、地区事務所より2件受信

1) さきたま古墳研修セミナーのご案内

日時：10月21日(日) 点鐘：10時

場所：さきたま古墳公園

会費：2,000円

2) ハイライトよねやま222号

集合時間 社会奉仕委員会・会長・幹事

般入のため 8:30集合

その他の会員は交代で行いたいと思います

会場準備の為 午前の部 9:00~12:00

会場の後片付け 午後の部 12:00~16:00

14日日曜日は「新座市民まつり」です。

新座こぶしロータリークラブとの合同例会になっております。そして、当クラブが担当です。

お忙しい事と存じますがご参加ご協力の程宜しくお願い申し上げます。

スマイル報告

親睦活動委員会

委員 陣野壮太郎



松岡 昌宏会員 本日の卓話、萩原 勇会員、高橋遼太会員宜しくお願い申し上げます。

萩原 勇 会員 ふつつかな卓話ですが宜しくお願いします。

金子 幸男会員 萩原 勇委員長、高橋遼太副委員長、米山月間の卓話楽しみにしております。

吉原 良一会員 卓話楽しみにしております。

森 克己会員 萩原さん、高橋さん、卓話楽しみにしています。

陣野壮太郎会員 来季の体制準備が全く手につかずIMあり、幹事決められず、といった理由で、困っています。どうしましょう。

神谷 稔 会員・岡野 元昭会員・宮川 勝平会員
岡本比呂志会員・森田 輝雄会員・本木 英朗会員
神谷 億文会員・石原 勇介会員・小泉 哲也会員
鈴木 明子会員・高橋遼太会員

『萩原 勇委員長、高橋遼太副委員長、米山月間の卓話楽しみにしております』

委員会報告

親睦活動委員会

委員長 本木 英朗



「9月度会員親睦委員会」のお知らせ

日時：9月27日(木) 19時~

場所：レストラン「パーシモン」

会費：5,000円

お忙しい事と存じますがご参加下さいますようお願い申し上げます。

社会奉仕委員会

委員 小泉 哲也

新座快適みらい都市新座市民まつり産業フェスティバル 第42回「こどもひろば」参加ご協力をお願い

日時：10月14日(日)AM9:00~PM3:00

場所：新座市役所市民第二駐車場

催物：スーパーボールすくい

米山記念奨学委員会

委員長 萩原 勇



先日読んだロータリーの友に『必携！財団設立50周年記念誌と記念ネクタイ』とあり、また、7月9日、米山セミナーに出席した折にも、今年度米山記念奨学委員の方は、米山記念奨学事業のPRとして活用して下さいとのことでした。私達が、同色のネクタイを着用していますのが、これがそのネクタイです。

本日は、この記念誌から抜粋して前半、後半に分けて高橋副委員長とコンビを組んで進めさせて頂きます。

日本におけるロータリークラブの創始

日本のロータリークラブの生みの親・米山梅吉翁

1905(明治38)年、ポール・P・ハリスのビジョンによってアメリカで生まれた「ロータリークラブ」が、日本で初めて設立されたのは1920(大正9)年のことであった。

この年にその東京ロータリークラブ(RC)を設立した人こそ、日本のロータリークラブの生みの親、米山梅吉である。

日本のロータリークラブは、大戦中、さまざまな誤解や圧迫のため、解散という憂き目にあう。1949(昭和24)年に国際ロータリー(RI)への復帰を果たしたが、米山梅吉翁はそれを見届けることなく、1946(昭和21)年にその生涯を終えることとなる。

米山翁の偉業を記念して、後世に残る有益な事業を立ち上げようという声上がり、東京RCの単独事業として始まったのが、奨学事業「米山基金」である。この事業は日本全国の共同事業へと発展し、1967(昭和42)年、財団法人ロータリー米山記念奨学会が設立された。この奨学会はやがて日本と世界を結ぶ懸け橋として世界にも類を見

ない大きな奨学事業に成長し、記念すべき50周年を迎えることとなった。

この事業が創始されて今日の繁栄があるのは、米山梅吉翁という人物の功績と遺徳によるものである。米山記念奨学事業の発展の歴史を振り返るにあたり、まずは米山翁の生涯を辿りたい。

8年に及ぶ留学生活

1868(慶応4)年2月4日、米山梅吉翁は東京・芝田村町に誕生した。父は大和国高取藩士「奈良県高市郡高取町」和田竹造で、梅吉はその三男であった。しかし、梅吉が4歳(満年齢、以下同じ)のときに父親が他界。母親の郷里である静岡県三島に移り住むこととなる。

幼いころから神童と呼ばれ、学業優秀であった梅吉は、隣村の長泉村(静岡県駿東郡長泉町)の大地主・米山家の目に留まり、養子縁組を結ぶこととなった。しかし、小作米を受け取るだけの大地主の若旦那となることを潔しとしなかった梅吉は、15歳のとき、沼津中学を2年で中退。より高度な教育を求めて東京へ出奔した。梅吉の向学心はとどまることを知らず、19歳で今度は船でアメリカへ渡り、8年に及ぶ留学生活を送った。家出同然で飛び出したため、当然ながら養父からの経済的援助は受けることができず、東京での4年間とアメリカでの8年間、完全なる苦学生として、働きながら勉強に勤しんだのである。

奉仕理念に感銘を受けて

1895(明治28)年に帰国した米山梅吉は、翌年三井銀行に入行。その後は着実に才覚を発揮して1909(明治42)年には41歳で常務取締役役に昇進した。数々の経験を経て財界の有力者となった米山翁は、海外視察の際にロータリークラブの存在を知り、その奉仕理念に深く感銘を受け、1920(大正9)年、日本初のロータリークラブである東京RCを創立。初代会長に就任した。1924(大正13)年には、スペシャルコミッショナーに任ぜられ、その2年後にはアジアから初のRI理事に選ばれた。

1924年、米山翁は三井銀行常務取締役役を退いて三井信託銀行を創立し、代表取締役役に就任した。三井銀行で取締役役として数度にわたる海外視察を行うなかで、海外における信託業務の発達状況を目の当たりにし、米山翁は日本でも今後信託業務

の必要性が高まることを確信していたのである。
また、経済的發展を続ける我が国において、新分野を開拓することで社会貢献を果たすということも、新会社設立の目的の一つであった。

まだ見ぬ大学生への援助

青年期のほとんどを苦学生として過ごした米山翁は、向学心がありながら学資に窮する学生への援助を惜しまなかった。その奉仕精神は懐の深い、愛情に満ちたものであった。

若いころから文学を好み、漢詩や和歌・俳句にも精適していた米山翁が他界した際、歌人の佐佐木信綱氏は『米山梅吉君を懐ふ』と題してこのようなエピソードを紹介している。佐佐木氏の知り合いの青年が大学進学後、学費に困っているという話をしたところ、米山翁は「未来ある人なら」と3年間の援助を申し出た。その際、「米山という名は先方に告げてくださるな。ただ、遠くから見守っている者があるから、と激励して渡されたい」と言って第1回目の援助金を佐佐木氏に手渡したという。

当時、海外視察に出かける機会の多かった米山

翁は、あるとき乗っていた船が暴風雨に見舞われあわや沈没という経験をした。

危機的状況のなか、これまでやり残した事柄が脳裏をかすめたというが、そのなかには、まだ見ぬ大学生への援助もあったという。無事帰国すると、米山翁は残りの1年数カ月分の援助金をまとめて佐佐木氏に託していったというのだ。このエピソードは『米山梅吉伝』（米山梅吉先生伝記刊行会編）にて紹介されているが、自らの命の危機において、一人の苦学生のことを思ったという逸話に、米山翁の奉仕精神と温かな人柄が表れている。米山翁はまた、東南アジアからの留学生に物心両面にわたる援助も行った。

1940(昭和15)年、世界大戦が激化するにともなう日本ロータリークラブは解散を余儀なくされた。1945(昭和20)年、この未曾有の大戦が終結すると、絶望から立ち上がった人々の手によって我が国の復興は急速に進められた。ロータリークラブの復帰も関係者の間で切望されたが、戦争直後の混乱した社会状況においてそれは容易なことではなく、時間を要するものであった。



9・10月のプログラム

委員長 宮川 勝平

27日(木) 夜間例会 「会員親睦会」パーシモン19時
10/4(木) 通常例会 「ガバナー補佐訪問」食事12時
会長・幹事 10時45分集合

11日(木) 例会取消 「市民まつり」に振替の為
14日(日) 移動例会 「市民まつり」第二駐車場 9時
18日(木) 通常例会 「ガバナー公式訪問」食事12時
入会3年未満(忍田・森・高橋)各会員 11時集合
25日(木) 夜間例会 「会員親睦会」ベルセゾン 19時



☆例会出席は 会員の義務です
欠席の場合はMake upをしましょう

出席報告

委員長 神谷 稔

H30.9.20	出席 21名 欠席 4名
会員数30名 (免除者5名)	出席率 84.00% 修正出席率 88.46%

クラブからの連絡

- ★10月14日(日)「市民まつり」9時
場所:新座市役所第二駐車場
- ★10月4日(木)ガバナー補佐訪問
- ★10月18日(木)ガバナー公式訪問
お忙しい事と存じますが、全会員のご出席を宜しくお願い申し上げます。

<http://www.niiza-rc.jp>

国際ロータリー第2570地区 新座ロータリークラブ

新座ロータリークラブ事務局

〒352-0001 新座市東北2-25-11-406

電話 048 (473)7041

FAX 048 (473)9221

Eメール niiza.rc@dance.ocn.ne.jp